

はじめに

新病院建設については、平成30年度に石本建築事務所を設計者として選定し、基本設計を行ってまいりましたが、昨今の社会情勢の変化による建設費の高騰の煽りを受け、当初予定していた予算をはるかに超過した建設工事費となることが判明したことから、基本設計の見直し（リニアックの既存利用・手術室5室整備→4室整備に変更等）を行い、120億の建設予算内で基本設計を取りまとめ、昨年のあり方検討会でご報告させていただいたところです。昨年のご報告から約1年が経過しましたので、現在までの進捗状況（施工予定者・ES（エネルギーサービス）事業者等の選定・実施設計の進捗状況・今後の見通し等）について、ご報告させていただきます。

施工予定者の選定（ECI方式の採用）

今回の新病院建設については、設計者によってまとめられた基本設計に対して、作り手（施工者）のノウハウ（技術力）を取り込み、建設コストの縮減と工期短縮を期待できるECI方式を採用しました。ECI方式を行うパートナーの選定については、公募型プロポーザルを実施し、現在、施工予定者の技術提案を取り込んだ形で実施設計を行っております。

施工予定者：安藤・間・吉村建設工事共同企業体

主な提案内容

- 建設費120億→102億
- 開院時期令和6年4月→令和5年10月
- 構造：RC造→RC造+S造のhybrid構造
- 感染症専用EVの設置
- 感染症対応空調システムの導入
- 地元事業者の活用提案 等

施工予定者からの主な提案内容（コロナ対応）

- ① 感染症対応専用EVを1基追加
専用エレベーターを1基追加することの提案。
外部から直接アクセス可能な位置にエレベーターを設け、一般の患者様と接触することがなく病棟へアクセス可能な計画とします。
- ② 独立した設備計画
5階の排水系統を一般系統から感染系統へ変更します。
5階の排気設備をHEPAフィルター付きとし、空調設備をクリーンルーム用エアコンに変更します。室内の循環回数を12回以上確保します。排気は屋上で開放します。



ES（エネルギーサービス事業者）の選定（ES方式の採用）

今回の新病院建設については、エネルギー供給に関するイニシャルコスト（電気・機械設備機器の設置）及び維持管理（運営：開院後15年）に関する業務を担う事業者を公募型プロポーザルで公募・選定を行いました。病院のエネルギーについて、設備機器の高度化と共に、省エネ運転が求められ、電気ガスをベストミックスさせながら病院への安定的なエネルギーを供給できる事業者を選定したところです。

ES（エネルギーサービス）事業者：東京ガスエンジニアリングソリューションズ

提案内容

- 予定金額約28.9億円（設備整備及び15年運営管理費）
- 機械設備の屋上化（有効スペースの確保）
- コージェネレーションシステム（400Kw）の導入（BCP対応）等

ES（エネルギーサービス事業者）からの主な提案内容（専有面積の合理化・災害対応）

- 要求水準を満足し、省エネルギーと災害対応運用コストの面で最適なシステム構築や専有面積の削減を提案（地下1階機械室を屋上に移し、地下1階スペースを有効利用することを可能にした提案）。
- ・CGSは信頼性の高い中圧ガス供給により燃料枯渇の心配がなく、確保に関するリスクを分散します。
 - ・基本設計通りの非常用発電に加えて災害拠点病院に相応しい大型CGSを導入することで、非常時の電気容量を増大させます。



施工予定者からの主な提案内容（工期）

品質を確保したうえで、新病院建設の工事期間を6ヶ月短縮する具体案を提示します。さらにⅡ/Ⅲ工区工事を6ヶ月短縮しグランドオープンを12ヶ月前倒します



<p>STEP1 1ヶ月短縮!</p> <p>STEP1: 令和3年4月上旬頃 準備工事: 仮囲い・既存駐車場解体・前面道路側ゲート作成</p>	<p>STEP2 1ヶ月短縮!</p> <p>STEP2: 令和3年8月中旬頃 N工区: 1次造成中 S工区: 山留完了～既成杭工事中</p>	<p>STEP3 1ヶ月短縮!</p> <p>STEP3: 令和4年1月上旬頃 N工区: 基礎躯体中 S工区: 基礎躯体完了～埋戻し中</p>	<p>STEP4 1ヶ月短縮!</p>	<p>STEP5 2ヶ月短縮!</p> <p>STEP5: 令和4年10月上旬頃 上階躯体工事 3階上り4階スラブ</p>	<p>STEP6 1ヶ月短縮!</p> <p>STEP6: 令和5年2月中旬頃 躯体上棟～ヘリポート建方工事中</p>	<p>STEP7 6ヶ月短縮!</p> <p>STEP7: 令和6年1月下旬頃 既設病院解体 ～駐車場外構工事中</p>
---	--	--	--------------------------------	--	--	---

実施設計段階での検討

新病院建設について、現在実施設計を行っている状況です。実施設計は設計者（石本建築事務所）・施工予定者（安藤・間・吉村JV）・CM（シップ・日建CM）・ES事業者（東京ガス）と病院の5社で行っています。特に施工予定者からの提案で、工事費削減提案が大きかったことから、当初整備を見送っていたリニアックや手術室（5部屋目）の整備などを追加した形で設計を進めています。

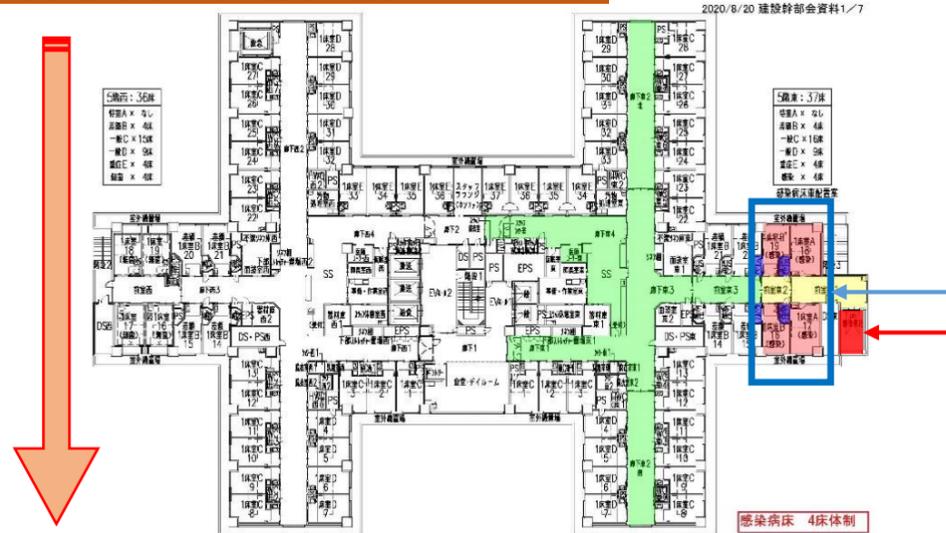
現在のマスタースケジュール（工期）



実施設計で追加した項目等について

感染症対応病棟（5階東）

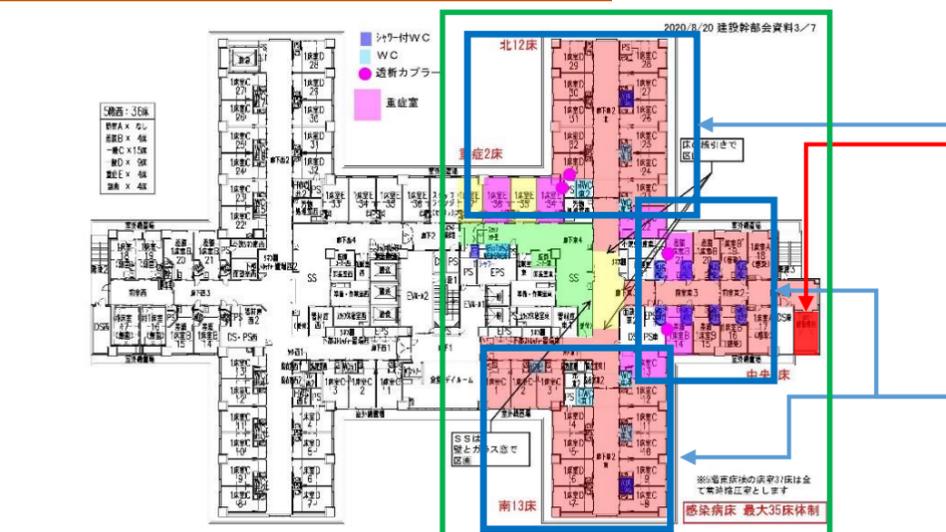
平常時（2種感染症病床 4床）



2種感染症指定医療機関として、通常時は4床までの感染症患者を受け入れる計画

感染症患者専用エレベーターの設置

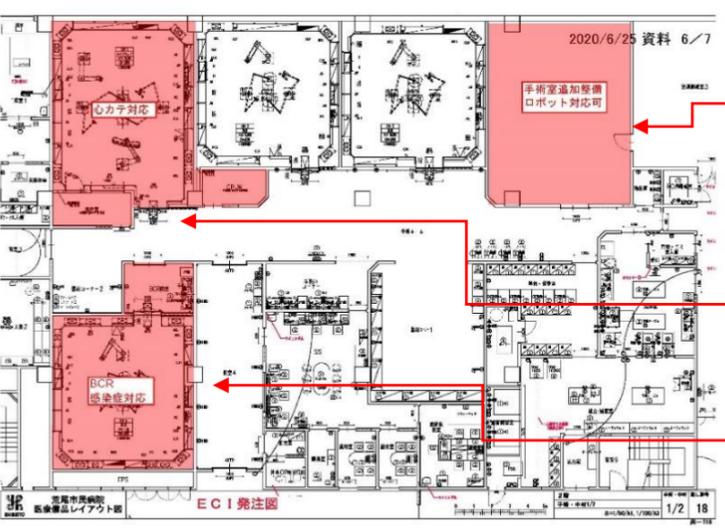
異常時（受入可能病床 最大37床）



感染症患者に対応した空調管理を導入

今回のコロナ対応のように、感染症が拡大した時にも最大37床までの感染症患者を段階的に受け入れることができる計画としている。

手術部門の強化（2階）

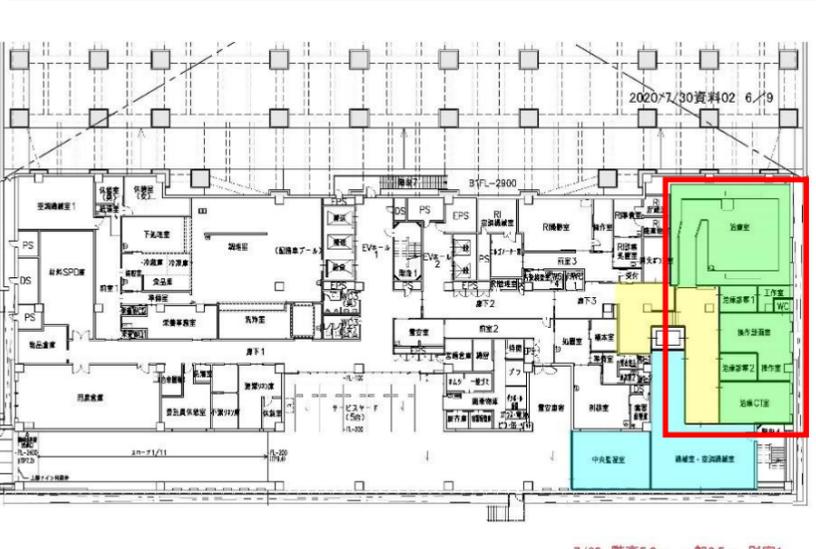


当初は予算の都合上、拡張スペースとしていたが、追加整備とした（ロボット対応手術室）

心カテを整備。小手術にも対応する。

通常時はBCR。感染症患者の手術にも対応

放射線治療（リニアック）施設の整備（地下1階）



当初は予算の都合上、既存施設を利用する方針であったが、設備機器の屋上化と合わせて、見積価格が当初予定より縮減したことから、利用者の利便性向上の為、新病院内に追加設置

今後の見通し

令和2年度迄

令和2年度は、下半期で実施設計・積算・契約交渉を行う。また、開発協議・建築確認申請・免震大臣認定等の行政協議等を行う。

令和3年度～5年度

令和3年度から建設工事に着手。目標開院時期に向けて工事を進める。その他、医療機器の購入準備や、運用計画等ソフト面の準備、工事完了後の引越し計画等の準備・発注を行う予定。

令和5年度～6年度

新病院開院後、現病院の解体・駐車場整備を行う予定である。また、現救急棟は、新耐震基準を満たしていることから、外壁・防水・トイレ等の必要最小限の工事を行い、研修棟として看護実習生・職員のコミュニケーションスペース・書庫等に活用する計画としている。全ての工事が完了するタイミングで公共交通（バス）の玄関乗入を行う予定としている。

